



Photostud

THE ARTEMIS STAKES

第14回 アルテミスステークス (GIII)

本賞	29,000,000円	2着	12,000,000円	3着	7,300,000円	4着	4,400,000円	5着	2,900,000円
付加賞	357,000円		102,000円		51,000円				



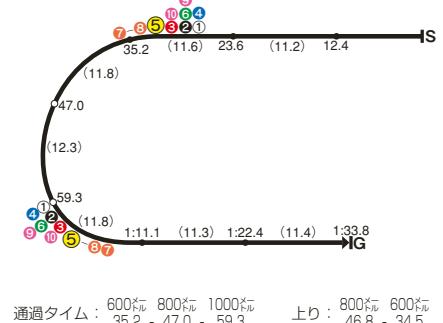
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

牝、2歳、除外未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

2025.10.25 東京 雨・稍重 芝1600m (国際) (指定)

種	馬番	馬名	性	年	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
1	⑤	フィロステファニー	牝	2	55	川田将雅	1:33.8	3-3	33.9	460(+12)	3.9(2)	中内田充正(栗東)	109	
2	⑩	ミツカネベネラ	牝	2	55	津村明秀	1 ¾	4-4	34.0	444(±0)	60.9(9)	鈴木伸尋(美浦)	105	
3	①	タイセイボーグ	牝	2	55	佐々木大輔	クビ	9-9	33.7	470(+2)	61.③	松下武士(栗東)	104	
4	⑧	ハッピーエンジェル	牝	2	55	三浦皇成	%	2-2	34.7	424(±0)	8.7(4)	武市康男(美浦)	103	
5	⑦	マルガ	牝	2	55	武 豊	1 ¼	1-1	35.2	484(+14)	2.2(1)	須貝尚介(栗東)		
6	④	レディーゴール	牝	2	55	菅原明良	ハナ	9-9	34.0	456(+6)	70.7(7)	池添 学(栗東)		
7	③	ルーチェフィオーレ	牝	2	55	横山和生	%	4-4	34.6	442(−4)	9.7(5)	嘉藤貴行(美浦)		
8	⑨	バースデーフライト	牝	2	55	和田竜二	ハナ	6-6	34.4	458(+14)	16.3(6)	新谷功一(栗東)		
9	⑥	ヒルデグリム	牝	2	55	横山武史	%	6-6	34.5	448(±0)	47.2(8)	小野次郎(美浦)		
10	②	ドナルンバ	牝	2	55	石橋 翔	%	6-6	34.6	460(+4)	19.6(7)	上原佑紀(美浦)		

単勝⑤390円(2人) 複勝⑤170円(2人) ⑩870円(10人) ①180円(3人) 枠連⑤-⑧2,150円(10人)
馬連⑤-⑩9,170円(25人) ウイド⑤-⑩2,630円(29人) ①-⑤500円(5人) ①-⑩2,940円(31人)
馬單⑤-⑩12,830円(39人) 3連複①-⑤-⑩11,190円(39人) 3連単⑤-⑩-①70,480円(214人)
5重勝⑤⑩③⑦⑤1,253,970円(261票) 対象競走：京都10R／東京10R／新潟11R／京都11R／東京11R



通過タイム： 600m 800m 1000m 上り： 800m 600m
35.2 - 47.0 - 59.3 46.8 - 34.5

アラカルト

- ・川田将雅騎手はリアアメリカで制した19年に続くアルテミスS2勝目。JRA重賞は本年9勝目、通算151勝目
- ・中内田充正調教師はリアアメリカで制した19年に続くアルテミスS2勝目。JRA重賞は本年5勝目、通算47勝目
- ・エビファネイア産駒はJRA重賞通算27勝目
- ・キャリア1戦1勝の馬の勝利は24年ブラウンラッシュに統く通算5回目

フィロステファニ Firostefani

牝 黒鹿毛 2023.2.7生
北海道千歳市 社台ファーム生産
馬主・有社台レースホース 栗東・中内田充正厩舎
馬名意味・ギリシャ、サントリーニ島にある夜景がきれいなス
ポット名

スキアFR系 F1-k		
エピファネイア 鹿毛 2010	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフリミエールGB
スキアFR Skia 鹿毛 2007	Motivator 鹿毛 2002	Montjeu Out West
	Light Quest 鹿毛 2000	Quest for Fame Gleam of Light

5代までのインブリード : Sadler's Wells S 4 × M4

INTERVIEW

東礼治郎 場長(社台ファーム)

運動センスの塊のような馬でした

当歳時から一貫して評価が高かった馬です。フィロステファニに携わったすべてのスタッフが高評価を与えていましたし、とにかく運動センスの塊のような馬でした。来年のクラシック路線に乗るために、獲りたいレースを満点の内容で制してくれましたが、レース後、故障が判明してしまいました。痛恨の思いです。



2歳リーディングの首位を独走するエピファネイアの産駒で、ソールオリエンスの半妹にあたる本馬は、7月に新潟・芝1600mの新馬戦でデビュー。32秒台の上がりタイムを記録して勝ち上がり、非凡な決め手を印象付けた。3ヶ月の休養を挟み、馬体もひと回り成長して臨んだこの日は、初陣で垣間見たスタート、折り合いなどの課題もクリアして初の勲章を獲得。残念ながらその後、故障(右前繫部浅屈腱炎)が判明し、しばらく戦列を離れ

父エピファネイア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首14戦6勝(ジャパンC G1、菊花賞G1、神戸新聞杯GII、ラジオNIKKEI杯2歳S GIII、日本ダービーG1 2着、皐月賞G1 2着)、15年から供用、21~24年日本2歳リーディングサイヤー2位〔代表産駒〕ダノンデサイル(日本ダービーG1、ドバイシーマクラシック・首G1、アメリカジョッキークラブC GII、京成杯GIII、有馬記念G1 3着)、ニアリングタクト(桜花賞G1、オースクG1、秋華賞G1、ジャパンC G1 3着)、エフフォーリア(皐月賞G1、天皇賞(秋)G1、有馬記念G1、日本ダービーG1 2着)、ステレンボッシュ(桜花賞G1、オースクG1 2着、阪神ジュベナイルフィリーズG1 2着)、プローザホーン(宝塚記念G1、日経新春杯GII、天皇賞(春)G1 2着)、テンハッピーローズ(ヴィクトリアマイルG1)、サークルオブライフ(阪神ジュベナイルフィリーズG1)、ビザンチンドリーム(オワ賞・仏G2、レッドシーターフH・沙G2)、アリストテレス(アメリカジョッキークラブC GII)、他に重賞勝ち馬多数

母スキアFR

仮16戦3勝(フィユドレール賞G3、メリサンド賞・L2着)、15年輸入

ニイサFR(13 牝父Danehill Dancer)仮15戦1勝、輸入繁殖牝馬

イフィアンドラGB(14 牝父Falco)仮9戦1勝、障害4戦0勝、輸入繁殖牝馬

アルペルティーヌ(15 牝父Leroidesanimaux)持込 中央21戦2勝

ヴァンドギャルド(16 牝父ディープインパクト)中央17戦5勝(富士S GII、ウ

エルカムS、三年坂特別、マイラーズC GII 3着、毎日杯GIII 3着、東京ス
ポーツ杯2歳S GIII 3着)、首、沙、北米、香6戦0勝(ドバイターフ・首
G1 2着、ドバイターフ・首G1 3着)、23年輸出(伯)

ハナテ(17 牝父ハーツクライ)中央4戦0勝、地方49戦8勝

フォティノース(18 牝父ドゥラメンテ)中央18戦2勝

セリノーフォス(19 牝父ダイワメジャー)中央16戦2勝(はやぶさ賞)

ソールオリエンス(20 牝父キタサンブラック)中央15戦3勝(皐月賞G1、京成
杯GIII、日本ダービーG1 2着、宝塚記念G1 2着、セントライト記念G1 2着、
菊花賞G1 3着)(廻)

フォティーゾ(21 牝父キズナ)中央6戦1勝

フィロステファニ 本馬(23 牝父エピファネイア)中央2戦2勝(アルテミス
S GIII) 総賞金36,857,000円

(25 牝父キタサンブラック)

※22、24(不受胎)

祖母ライトクエスト Light Quest

アメリカ産、仏3勝、トロパオ Tropaios(ミルコム賞・仏L)の母

過去10年間の優勝馬に、"のちのGI
ウイナー"が5頭も名を連ねるアルテ
ミスSには、7月の初陣(函館・芝1
800m)をレコードで逃げ切った後、
ここに照準を定めていたマルガが登場。
2020年の覇者ソダンシの半妹にあた
る白毛馬の走りが注目された。とはい
え、無傷の2連勝を飾ったのはもう1
頭のG1馬の半妹。対抗候補と目され
ていたフィロステファニが鮮やかな強
襲を決めた。

朝から降り続いた雨の影響で、微妙

に渋つた馬場(稍重)を舞台に争われた

レースは、五分のスタートを切り、一

番のダッシュで飛び出したマルガが小

細工せずに先頭へ。後続を2、3馬身

離し、軽快に飛ばす白毛馬を遠目に見

遣りながら、フィロステファニの川田

将雅騎手は自分のリズムを守って3番

手を進む。一方、2頭に次ぐ支持を集

めた新潟2歳Sの2着馬タイセイボ

グはゲート内の駐立が悪く立ち遅れ、

後方2番手で末脚勝負に構えた。

傷みが目立つ内ラチ沿いを避け、終

始、3、4頭分ほど外を回つて逃げた

マルガは、楽な手応えを保つたまま4

コーナーをターン。しかしギアを上げ

たライバルの加速力に、"ギレ負け"

した格好となり、坂の上りで後続に呑み

込まれてしまう。かわって先頭に躍り

出たのがフィロステファニだった。馬

場の外めに進路を取つて追い出される

と一枚上の末脚を發揮。坂上で抜け出

してからも最後までしっかりと伸び、ミ

タカネベネラ以下の反撃をまったく寄

せ付けずにつ勝利を手にした。

2歳リーディングの首位を独走する

エピファネイアの産駒で、ソールオリ

エンスの半妹にあたる本馬は、7月に

勝ち上がり、非凡な決め手を印象付けた。3ヶ月の休養を挟み、馬体もひと

回り成長して臨んだこの日は、初陣で垣間見たスタート、折り合いなどの

課題もクリアして初の勲章を獲得。残

念ながらその後、故障(右前繫部浅屈

腱炎)が判明し、しばらく戦列を離れ

が、1日も早い復帰が待たれる。

後続を寄せ付けず初の勲章を獲得